



2018年度
(平成30年度)

事業報告書

第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

第2 事業の概要

- 1 2018年度 事業方針
- 2 2018年度 法人 事業報告
- 3 2018年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2018年度 小学校 事業報告
- 5 2018年度 認定こども園 事業報告

第3 財務の概要

- 1 2018年度決算状況 別添2018年度計算書類のとおり

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

法人の名称	学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所	大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号	072-721-7680
設立	1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としています。聖マリ・ウージェニーは、1817年8月25日フランスのメッツで生まれ、2017年8月に生誕200周年を迎えました。

聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立しました。

日本では、1952年にフィリピンとヨーロッパから5人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備いたしました。1954年に学校法人として認可されて以来、今日までの64年間、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園幼稚園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2 学院のモットー、教育理念

(1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

(2) 教育理念

イエス・キリストの教えに基づいて、

- ① 真理と善をもとめ
- ② 他者を愛する人間性を育み
- ③ 社会に平和と正義をもたらすために
- ④ 自らの生を生き抜く人間の育成に努める。

3 学院の沿革と概要

(1) 法人設立認可年月日

1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1987年（昭和62年）4月1日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

(2) 学校園設置認可年月日

1954年（昭和29年）2月9日幼稚園設置認可

1954年（昭和29年）2月9日小学校設置認可

1959年（昭和34年）11月6日中学校設置認可

1962年（昭和37年）9月29日高等学校設置認可

1967年（昭和42年）1月23日短期大学設置認可

2005年（平成17年）7月29日短期大学閉学認可

2015年（平成27年）3月31日幼稚園廃止認可

2015年（平成27年）4月1日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2018 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区分	収容定員数 (A)	現員数 (B)	収容率 (B/ A)
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園	318	285	89.62%
アサンプション国際小学校	360	244	67.77%
アサンプション国際中学校	240	127	52.91%
アサンプション国際高等学校	240	233	97.08%
合計	1,158	889	76.77%

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は 2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5) 役員、評議員の概要

2018 年 5 月 1 日現在（単位：人）

職務	定員数	現員数
理事	7	7
監事	2	2
評議員	15	15

(6) 教職員の概要

2018 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教員	本務	17	24	21	22	84
	兼務	17	9	9	11	46
職員	本務	2	4	4	4	14
	兼務	4	7	4	4	19

第2 事業の概要

1 2018年度 事業方針

アサンブション国際 2018年度 事業計画と概要

(事業目標)

- (1) 経営再建として3カ年をめどに単年度収支の黒字化を図るため、下記の募集人数を確保する。
- | | | | | | |
|------|------|------------|--------|------------|----------|
| 小学校 | 100名 | (募集定員 60名) | ⇒ 事業実績 | 2018年4月新入生 | 67名 |
| 中学校 | 40名 | (同 80名) | ⇒ 事業実績 | 2018年4月新入生 | 58名 |
| 高等学校 | 100名 | (同 80名) | ⇒ 事業実績 | 2018年4月新入生 | 118名 |
| | | (合計240名) | | | (合計243名) |
- (2) 小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。
- (3) 学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンブション教育の徹底を図る。
- (4) 認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は、新園長のもと新体制でカトリックミッション教育の更なる充実を図る。また2018年度より、名称をこども園アサンブション国際幼稚園とする。

(事業展開)

- (1) 広報の一本化(小、中高)を図り、力ある広報体制を展開。広報活動に従来を超える工夫と、実行。
- (2) 学ぶ生徒児童が、将来に大きな希望と自信が持てる教育。私立学校として、公立では学べない豊かな教育を実施。また、他校との差別化を図る教育への探求と行動。
- (3) 21世紀型教育の根幹、真の思考型(探求)を実施し世界標準教育を行う。アクティブラーニングは、多くの学校で正しく理解されず言葉が陳腐化したともいえるので、PBL(Project Based Learning 課題解決型教育)と呼称することとする。
- (4) 英語教育は、江川校長指揮でアルベール先生を核とした英語教員システムの構築。
- (5) ICT教育は、新中学1年新高校1年から実施。
- (6) 小中高一貫教育を目指す元年とし、小中一貫と高校を結びつける研究、試行を行う。
- (7) 中学高校男子生徒の募集強化に努め、25%確保に努める。

⇒ 事業実績 中学校男子入学比43.1%、高等学校男子入学比50%。

(事業実績) 2018年4月新入生 243名の内訳

2018入学生	男子		女子		計
小学校	26人	38.8%	41人	61.2%	67人
中学校	25人	43.1%	33人	56.9%	58人
高等学校	59人	50.0%	59人	50.0%	118人
計	110人	45.3%	133人	54.7%	243人

2 2018年度 法人 事業報告

1 近年の入学生激減から脱却し、増加傾向に転換した。

- ① 本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954年(昭和29年)2月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987年(昭和62年)4月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005年(平成17年)7月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を

展開してきた。

② しかし、近年は少子化の影響をもろに受け、2015年4月には小学校入学生が15名と激減した。

近年の5月1日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
幼稚園	324	294	291	285	276	270	282	307	288	318	310	314	308	309
小学校	360	282	317	322	340	326	316	302	284	267	247	222	189	179
中学校	240	147	151	148	155	190	207	197	184	181	174	149	133	133
高校	240	189	184	161	161	160	171	176	199	197	186	174	172	164
総合計	1164	912	943	916	932	946	976	982	955	963	917	859	802	785
小中高計	840	618	652	631	656	676	694	675	667	645	607	545	494	476
小中高収容定員充足率		73.6%	77.6%	75.1%	78.1%	80.5%	82.6%	80.4%	79.4%	76.8%	72.3%	64.9%	58.8%	56.7%

2 2018年度の男女共学校、21世紀型教育施設設備（ICT環境、iPad導入、フューチャールーム）等の工事概要は次のとおりである。

区分	工事概要	金額（円）	備考
体育館整備	中高第二体育館2階部室改修工事	540,000	
	中高第二体育館1階更衣室改修工事	810,000	
	西館地下1階剣道部部室整備工事	334,800	
トイレ整備	北館1・2・3・4階男子・女子トイレ改修工事	15,120,000	寄付金を一部充当
	小学校2階男子トイレへの改修工事	6,372,000	
厨房整備	北館食堂厨房改修工事	6,998,400	
立体駐車場整備	立体駐車場新設階段設置工事	7,992,000	2018年夏季休業中
	立体駐車場2階消火器移設及び鉄柵改修	1,987,200	
グラウンド整備	グラウンド遊具撤去工事	1,026,000	
	グラウンド整備工事（人工芝コート・照明設備・防球ネット8m）	52,002,000	寄付金を一部充当
第二園庭整備	新第二園庭人工芝等整備工事		
	テニスコート東側アスファルト舗装工事	2,127,600	
	新第二園庭遊具設置工事（2件）	6,700,000	寄付金を一部充当
	新第二園庭安全対策工事	480,000	
設計監理	設計監理費	1,555,200	
	合計（B）	104,045,200	
	総計（A+B）	132,860,606	

3 2018年度 中学校高等学校 事業報告

【理念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～2030年の社会に向け、SDGsの達成に貢献するための「21世紀型教育」の充実

【重要課題】

1. 入学者の確保 中学校 60名以上、高等学校 100名以上を目標とした広報戦略の強化
2. 教育力の向上 21世紀型教育の充実
3. 共学化、新コース制に見合った組織と施設設備の充実

【課題への具体的な取り組みと評価】

1. 入学者の確保 中学校 60名以上、高等学校 100名以上を目標とした広報戦略の強化
 - (1) 中高で強化クラブとして男子サッカー部を運営
 - ①募集活動において、公立中学校への丁寧な情報提供
 - (2) Web ページによる情報発信力の強化
 - ①紙媒体（ちらし等）によるイベント告知から Web ページへ誘導する流れの確立
 - ②アクセス解析の実施
 - (3) 校内入試イベントの充実
 - ①回数、内容について、昨年度改善したものを今年度も踏襲
 - ②各イベントのプログラムに制服試着を追加
 - (4) 校内入試イベント個別のちらしを作成（継続）
 - (5) 公立中訪問（全4回）に全教員で対応（継続）
 - (6) 入試制度の改善
 - ①高校成績相談の基準の改定
 - ②英語外部資格検定試験利用を導入

評価：高校入学者数は、2年連続で専願者だけで募集人員を上回ったので非常によかった。
高等学校 124名（外部 89名＋内部 35/41名）。

（昨年：外部 88名＋内部 30/45名、一昨年：外部 44名＋内部 35/44名）

また、昨年度頻発したサッカー部の募集や入試の事務作業に関するトラブルが、今年度はなかったため、良かった。

一方で、中学入学者数は目標に届かなかった。一般入試による入学者数は微増したが、内部進学者数の減を上回ることができなかった。また、今年度は帰国生入試の受験者がいなかった。中学入試は引き続き厳しいと思われるが、対応策を考えたい。

中学校 56名（外部 38名＋内部 18/32名）。

（昨年：外部 36名＋内部 22/32名、一昨年：外部 12名＋内部 18/41名）

中学サッカー部が秋季大会において大阪府ベスト4の成績を残した。校名宣揚に大いに貢献したと思われる。

2. 教育力の向上

- (1) 21世紀型教育の充実に関する取り組み
 - ①英語イマージョン教育の充実
 - a ネイティブ教員の人員増
 - b オリジナル教材製本化に向けての準備
 - ②PBL教育の推進
 - a コアメンバーを中心に、全教科で実践（研修と並行して）
 - ③ICT教育の推進
 - a 昨年度に続き、新1年生全員に、教育機器として iPad 導入、活用
- (2) その他の取り組み

①授業の充実

- a 授業力向上のための教員研修の実施
- b 授業時間の45分から50分への延長
- c 教育課程の継続した検討と適宜修正

②国際交流プログラムの充実

- a 高校イングリッシュコースでカナダターム留学を開始
- b 長期留学生の受け入れ

③進路指導の充実

- a 関西学院大学との教育連携強化（高2全員がオープンキャンパスに参加）
- b 海外大学協定校推薦入学制度の導入

評価：改革2年目にあたり、21世紀型教育の浸透と充実が実感できる1年であったと思われる。改革による新しい取り組みが全学年にわたる来年度は、それらをさらにブラッシュアップしていきたい。

3. 共学化、新コース制に見合った組織と施設設備の充実

- (1) イングリッシュコースのクラスに副担任としてネイティブ教員を配置
- (2) 部員数増に伴うサッカー部のスタッフ増員
- (3) 2019年度に向けた一部組織改編の決定
 - a コース主任の廃止と、それに変わる「イマージョン部」「カリキュラムマネジメント部」の設置を決定
- (4) 2019年度に向けた施設設備の整備
 - a クラス数増に伴うホームルーム教室の増設と選択授業を行う教室の確保
 - b 「a」に伴う学内LANや特別教室等の整備
 - c 生徒数増に伴う自転車置き場の整備

評価：施設設備については、入学者数およびクラス数増に伴う必要な整備を法人と連携して行った。引き続き、来年度の教育活動を進めていく中で出てきた新たな課題について対応したい。

4 2018年度 小学校 事業報告

【理念】

年間テーマ「分かち合い」…年間行事の様々な場面で「分かち合い」というキーワードを使い、児童にも職員にも深く印象付ける。

【重点課題】

- 1. 授業力向上に向けた「分かち合い」
(振り返り) 特に新任研修が強化できた。外部への大きな広報材料につながる。
- 2. 英語力強化に向けた「分かち合い」
(振り返り) 英語専科の専任教諭がいないため、長期的な体制作りが難しい。
- 3. 学院的課題に向けた「分かち合い」
(振り返り) 89名受験、76名合格、66名入学。募集100名には届かなかった。
- 4. 幼・中高教職員連携に向けた「分かち合い」
(振り返り) 教員アンケートで低評価。課題の見直しが必要。
- 5. 宗教教育再生・強化に向けた「分かち合い」
(振り返り) 例年通りの活動にとどまった。

【課題への具体的な取り組みと評価】

- 1. 授業力の向上と評価
 - ①研究研修体制…新任研修を計画的に実施。一方で、学校公開は実施できず。

- ②分掌連絡会…概ね達成。情報共有がスムーズになった。
- ③メンバー大幅入れ替え…授業力の差はあるものの、サポート体制は強化できた。
- 2. 英語力（イマージョン）強化と評価
 - ①イマージョン・スタッフ強化…イマージョン会議の定期実施。
 - ②イマージョン授業レベルアップ…長期的カリキュラムの作成が急務。
 - ③低学年イマージョン手法の確立…新3年制進級時に変更実施。
- 3. 学院的課題＝募集大増強（100名必達）と評価
 - ①説明会手法の見直し強化…DVDを活用することで、具体的な姿を伝えられた。
 - ②親密学習塾・英語幼稚園との連携強化…グローバルビレッジとの連携
 - ③入学試験の抜本的見直し…筆記試験の分量を減らし、集団観察の割合を増加。
- 4. 幼・中高教職員間との連携強化と評価
 - ①幼稚園⇒小学校…園長推薦制の実施。来年度も継続していく。
 - ②小学校⇒中学校…校長推薦制度の改革。来年度も同様に継続。
 - ③教員交流促進…交流の機会は少ない。計画的に進めていく必要あり。
- 5. 宗教教育再生・強化と評価
 - ①学院全体の宗教委員会の立ち上げ…具体的な取り組みは実施できなかった。
 - ②「宗教の時間」への教員の参画…意識の向上は見られた。
 - ③宗教教育実施…初任者研修はできたが、全体には実施できていない。

5 2018年度 認定こども園 事業報告

2018年度活動テーマ

「子どもの自立・自己肯定感を高める保育」

人格形成の大切な幼少期に、様々な体験を通して子どもが遊びの中から学び、強く優しい体と心を育む。

在籍者数及び入園者報告

2歳児 10名 3歳児 78名 4歳児 104名 5歳児 100名
 (2019年3月末実績)

2018年度重点取組内容についての報告

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ・遊びを通して主体的・協働的な学びができる保育を強化し、カリキュラムをブラッシュアップする。
- ・保育内容や体験活動をより充実させ、子どもたちの知的好奇心を高めるとともに、小学校をはじめ他所属との交流を活発にし、学院全体で園児を見守ることで、一貫教育のよさを伝える。
- ・敏感期の子どもたちの自立や自己肯定感を育むモンテッソーリ教育や縦割り保育、横割り保育、その他の体験活動を充実させる。
- ・担任による日々の宗教教育に加え、シスターによる神さまのお話を実施する。
- ・幼児体操専門の指導員を招き、心と体の鍛錬と体力の向上を図り、子どもたちの運動能力を伸ばすための体操保育を実施する。
- ・幼児英語専門の指導者のもと、ゲームで遊んだり歌ったり、楽しみながら自然に英語や国際感覚を身につける英語保育を実施する。

(2) についての報告

- *子どもたちが自分で考え行動できるような活動を取り入れた。(テーマを決めた自由制作活動野を
 実施した)生活発表会では、その活動の成果を保護者に見ていただくことで、教育方針への理解を得ることができてきた。
- *中学高等学校からの海外留学生との交流会、小学校「みんなであそぼう」など、他所属との連携を図ることができた。

*シスターによる神様のお話は実施できたが、各クラスでの宗教教育は時間を取ることができなかった。

*コヤマスポーツスクールに体操保育を業務委託し、子どもたちの運動能力を伸ばすことができた。また、体操保育に必要な知識や技術を教員が学ぶこともできた。

*ETMを実施した。2019年度は外国人教諭による英語保育の実施を企画する。

(3) 教員のレベル向上

- ・教員スキル向上研修や公開保育、メンタルヘルス対策、学校カウンセラーによる教育相談を実施する。
- ・モンテッソーリディプロマ保持者による指導方法の伝授や教材作成を実施する。
- ・神父様や宗教担当者による研修を実施し、カトリック教育の理解を深める。
- ・新任研修、保育参観指導・研修を充実させる。

(4) 報告

*定期的な研修や学校カウンセラーによる教育相談を実施した。

*年間6回以上のモンテッソーリの内部研修を実施。新任研修も外部、内部それぞれで研修を実施した。カトリック教育の宗教研修は実施したものの、理解を深めるためにはより研修を重ねる必要がある。

*2019年3月19日、預かり保育実施中に、園児に対して教員（パート職員）による不適切な指導があった。当該園児とその保護者にお詫びをし、4月19日の父母の会総会にて保護者説明会を実施。専任だけでなく、定時職員にも研修に参加できるようにする必要がある。

2. 教育環境の整備

- ・子どもたちが毎日過ごす環境を、明るく・美しく・安全に整える。
- ・自家用車送迎を希望する家庭には、毎年度申請制とし、「立体駐車場使用許可証」を発行する。本学院内に車で入構する場合はフロントガラス内側に呈示するよう徹底し、安全管理に努める。
- ・自転車通園・徒歩通園の家庭には、マナー登降園指導を実施し、安全管理に努める。

(1) 報告

*6月の地震後、第一園庭横と園舎入口に続くブロック塀の改修工事をした。

*保護者に、自家用車での通園には必ず「立体駐車場使用許可証」を提示するよう促した。

また、自転車や徒歩通園でも、マナーを守って安全に登降園できるよう、教員が迎え入れや送り出しをするようにした。

*近隣（ファミリーマート等）に無断で駐車する在園児の車を取り締まり、指導をいれた。

3. 社会連携・奉仕事業

- ・地域子育て支援のイベント「みんなであそぼう」を定期的実施する。

(1) 報告

*地域子育て支援のイベント「みんなであそぼう」を年間18回（園庭開放を含む）実施した。

4. 募集・入試に係る事業

(1) 募集活動の強化

- ・2019年度入園者数の目標を90名とし、募集活動をより一層強化する。
- ・2019年度用に新たに作成した園案内を、説明会出席者や来園者に配付する。
- ・ホームページをブラッシュアップする。（デザイン・掲載写真の更新）
- ・園庭開放を定期的実施し来園者を増やす。

(2) 報告

*2019年度の入園者数は82名となり目標達成には及ばなかった。一方で職員の退職もあり、園児数に対して教員数（加配教員も含む）が不足しているのが現状である。園児数の確保のためには教員数の確保が必要である。

*新しい園案内を作成し、説明会出席者や来園者に配布した。

*ホームページ上の写真の更新や日々のブログを更新し、最新の情報を提供するようにした。

*地域子育て支援イベント「みんなであそぼう」と同様に園庭開放を実施した。

(3) 関係各所との連携

- ・一人ひとりをきめ細やかに見守り、大切にすの一貫教育のよさを活かす。
- ・内部進学制度（園長推薦）の構築とその周知徹底をはかる。
- ・小学校との計画的な交流や連携を強化し、幼小一貫教育に力を入れる。

(4) 報告

- *内部進学する子どもたちの状況を小学校と情報を共有し、幼稚園卒園後も引き続き細やかな配慮ができるように話し合いの場を持った。
- *内部進学制度を見直し、園長推薦者はグローバルコース・イングリッシュコースそれぞれ希望するコースに進学することができるようになった。保護者からは好評で、前年5名だった内部進学者は今年度13名まで増加した。
- *幼稚園から小学校の教育を繋がりのあるものにするためのカリキュラムを新たに構築するため、協議しているが2018年度の実施には至らなかった。